

2024.7.21【全然堂歳時記秋】【桃】 選37句

鬼女の如く現れ出でし桃の種

桃の皮食へぬ一句を作りけり

桃の夜に真つ赤な種を吐き出せり

白桃の代りに鬼の呉れしもの

桃の皮突つ張るやうに桃太る

白桃にはしたなき種ありにけり

お供への桃を生者が分つなり

白桃の大きな皮と思ふかな

桃の実の花柱名残といふあたり

白桃は欠伸の如く大きかり

薄皮を引けば桃の実桃の皮

積み上げて夢の高さの桃の山

白桃や梨や柿とはまた別の

白桃や死者の旅路の安かれと

桃色は桃の実のいろ甘さうな

桃すも少し離れて雨後と死後

わが好きのヘビーシロップ桃缶の

桃の傷大きく切つて捨てにけり

桃すする幼なのほつぺ落ちさうな

白桃に一生の傷ありにけり

老いぬればやがて仙人桃啜る

宵の口月に供へし桃を食ふ

食つてやらねば桃は樹上に腐るのみ

桃啜る雨の予報に雨の来て

白桃の柔肌に刺すフォークかな

もものみのうすももいろにふくらんで

桐箱と云ふにあらねど桃の箱

桃の香の残る机に稿を継ぐ

桃かしら桃に似てゐるだけかしら

灯を消して白桃の香を存分に

白桃の無実には赤き種が出て

仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ

白桃のいくらでもある桃畑

白桃を食ひ白桃の人となる

花の痕とんがっている白桃よ

桃の実をひたと包んで桃の皮

白桃の中に苦惱の種がある

鬼女の如く現れ出でし桃の種

桃の皮食へぬ一句を作りけり

白桃の中に苦悩の種がある

白桃の代りに鬼の呉れしもの

桃の皮突つ張るやうに桃太る

桃の夜に真つ赤な種を吐き出せり

お供への桃を生者が分つなり

白桃の大きな皮と思ふかな

白桃にはしたなき種ありにけり

白桃は欠伸の如く大きかり

薄皮を引けば桃の実桃の皮

白桃をもぎたる枝の軽やかに

積み上げて夢の高さの桃の山

白桃や梨や柿とはまた別の

白桃や死者の旅路の安かれと

桃色は桃の実のいろ甘さうな

桃すもも少し離れて雨後と死後

わが好きのヘビーシロップ桃缶の

桃の傷大きく切つて捨てにけり

桃すする幼なのほつぺ落ちさうな

白桃に一生の傷ありにけり

古いぬればやがて仙人桃啜る

宵の口月に供へし桃を食ふ

食つてやらねば桃は樹上に腐るのみ

桃啜る雨の予報に雨の来て

食つてやらねば桃は木の枝に腐るのみ

もものみのうすももいろにふくらんで

白桃の柔肌に刺すフォークかな

桃の香の残る机に稿を継ぐ

桐箱と云ふにあらねど桃の箱

灯を消して白桃の香を存分に

桃かしら桃に似てゐるだけかしら

仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ

白桃のいくらでもある桃畑

白桃を食ひ白桃の人となる

花の痕とんがつている白桃よ

桃の実をひたと包んで桃の皮

桃の実の花柱名残といふあたり

鬼女の如く現れ出でし桃の種
お供への桃を生者が分つなり

仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ
桃の実をひたと包んで桃の皮

桃の実のいくらでもある桃畑
花の痕つんとしてゐる桃の実よ

白桃は欠伸の如く大きかり
積み上げて夢の高さの桃の山

桃の皮突つ張るやうに桃太る
白桃の大きな皮の縮むなり

桃の実の中に苦悩の種がある
桃の実にはしたなき種ありにけり

白桃や黄泉路の旅の安かれと

薄皮を引けば桃の実桃の皮

桃の夜に真つ赤な種を吐き出せり

桃の傷大きく切つて捨てにけり

桃色は桃の実のいろ甘さうな

桃の実に一生の傷ありにけり

わが好きのヘビーシロップ桃缶の

宵の口月に供へし桃を食ふ

桃すする幼なのほつぺ落ちさうな

桃啜る雨の予報に雨の来て

老いぬればやがて仙人桃啜る

もものみのうすももいろにふくらんで

桃の実の柔肌に刺すフォークかな

桃の香の残る机に稿を継ぐ

桐箱と云ふにあらねど桃の箱

灯を消して白桃の香を存分に

桃かしら桃に似てゐるだけかしら

鬼女の如く髪振り乱す桃の種

仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ

桃の実の中に苦悩の種がある

お供への桃を生者が分つなり

桃の実をひたと包んで桃の皮

桃の夜に真つ赤な種を吐き出せり

あくびほどの大きな桃の置かれある

桃の皮一枚にして桃包む

枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤

あてもなく三途の川に桃を積む

桃むけば水着のやうに縮む皮

白桃や黄泉路の旅の安かれと

桃色は桃の実のいろ甘さうな

桃の実に一生の傷ありにけり

わが好きのヘビーシロップ桃缶の

桃の傷大きく切つて捨てにけり

桃すする幼なのほつぺ落ちさうな

宵の口月に供へし桃を食ふ

じわじわと桃の形でなくなりぬ

桃啜る雨の予報の当りし夜

桃かしら桃に似てゐるだけかしら

もものみのうすももいろにふくらんで

桃の実のいくらでももある桃畑

桃の香の残る机に稿を継ぐ

花の痕つんとしてゐる桃の実よ

灯を消して桃の実の香を存分に

桃の実にはしたなき種ありにけり